

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：若野三朗 幹事：吉山宥海

情報委員長：清水 忠

1978・11月16日 第128号



“俳句のころ”

俳人 塩田 紅果氏

俳句には天然自然を写しとる花鳥風詠、人間の生きる苦しみを執えた生活俳句、さらに作る事が目的ではなく、人道を教示する句、人生俳句がある。

此の夫々の中心的な俳人は正岡子規であり、小林一茶であり、松尾芭蕉である。

芭蕉の門人、宝井其角が「俳句とは一体何か」と先生に聞いた処芭蕉は「その様な質問をするのは俳句の本当の目的を知っていないからである」と。……

俳句は五・七・五とただ単に行を並べればよいものではない……道なのである。それは西行が歌を勉めた様に又雪舟の絵、利休の茶の様に一つの道であって、決して和歌や絵や茶の点前が上手になるといった表面的なことでは決してない。もっと奥にあるもの、清く明るい社会をつくるために人間としての歩むべき道理を17文字を通して詠うのである。

風雅の誠、それは自然を愛し人間の導きを美しくとらえる心である。この精神が本当の道を学ぶ基本であるとすれば俳句本来の目的も自ずと理解されよう。

思想的にも経済的にも行き詰まりの今日、俳句の心、それは一層大切である。

—金沢北RC例会講話より— (文責 米沢修一)

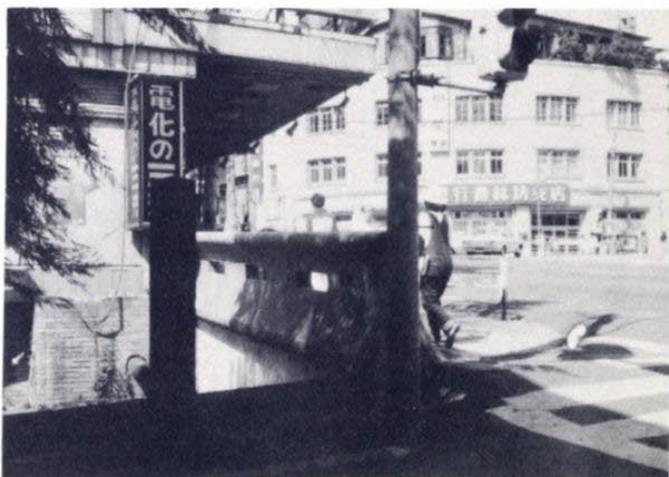
ふるさとシリーズ “橋”

⑦ 香林坊橋 (鞍月用水)

寛永8年の火災で市区を改めるまで、犀川は二流に分かれていた。その支流の橋として小橋、一名道安橋と号した。

14年前、完成した今の橋は金沢の都市美を壊さないよう、色彩、形に気を配り中でも欄干に特に工夫を懸らした。

周囲が変化する中で、何か落ち着いている。



私 の 名 刺

本 岡 三 千 郎



“加賀の国 三郎右衛門 稲を刈る” 素 十

この句は母の俳句の先生である高野素十という方が、以前私の家に来られた時、諧謔的に詠まれたものです。三郎右衛門とは、本岡家の世襲された名前で歴代金沢市北郊、大象免村の肝煎（他所では庄家のこと）を勤めておりました。史料の上では享和2年（1802年）肝煎を命ぜられた記録はありますが、それ以前は判っておりません。口碑によると私の先祖は、今の森山2丁目（旧大象免中通り）の浄行寺の近くに住んでいて、数回の町方からの出火で類焼にあい、そのつど町つづきをきらって移転し、今住んでいる元町へきたのが今から133年前ということでした。

本岡家は先々代三千治が明治時代長らく県議を勤め、耕地整理の立法化に努力し、又先代太吉はこの地の特産物である加賀蓮根を育成したという代々の農家です。私も大学を卒業するまで、わずかの田畑ですが耕作を手伝っておりました。先代までは地主として農業を営んでおりましたが、終戦直後「田圃を作ろう」と言って実際に苗を植え、稲を刈ったのは父の代です。しかし都市化の現象で近所はその面影を残す所はほんのわずかになってしまい、私の家も田作りを止めてしまいました。今、私が役員をしている金属線加工の会社も、終戦後しばらくして父が設立したものです。

ところで私は9代目、いわゆる百姓育ちのせいか性分はお人良しののんびり屋という感じですが、言われることは何でも引受け、そして皆様の協力がないと実行出来ない。いつも自己反省している次第です。昨年も鳴和中学校同窓会長として、創立30周年記念事業を行いました。成功裡に終わりましたが、同窓生の皆様の協力の賜ものと思っています。

学校は父も学んだ慶応義塾大学に入学し、そして又、父と同じく「都市社会学」という課目のゼミを選びました。学んだと言うより学校へ足を運んだだけで、スキー・登山そして麻雀という日々だったようです。卒業後すぐ川崎にある昭和電線電纜という会社に入社し、4年間のサラリーマン生活後、金沢へ帰り今の会社へ入社しました。

さて、私の役員をしている別会社に、下水道用マンホールを主に製造する、金沢コンクリート工業という会社があります。先日、会社全員一致の努力で、通産省より、日本工業規格JIS 認定工場という許可が下りました。小規模工場ですが、どうにか軌道に乗った感じです。

最後に若輩ですが今後共よろしくご指導のほどお願いいたします。

舞台の上 一人の役の 栄ゆれども あだには立たず 立つ人皆の
足早に 我来にけらし 途のなかば ふりかへり見れば 余りに寂し
人のため よかれと告ぐる 言葉こそ おのが懺悔の まことなるべき
なかなか 秘めおくことの 多き世ぞ 今を栄えの 人のためには
遠く見ゆる 人の影にも 大きくし 寄ればさあらぬ 男なりけり

「死」あれこれ (1)

越 野 民 男

先日、職業奉仕委員長の上田さんから、8月17日の卓話に富山大学学長の林先生にお願いしてもらえないか、私に林先生の御都合を聞いてほしいと依頼されました。林先生にお願いした所、8月17日はどうしても都合が悪いので次の機会にしてほしいと御返事がありました。そうした事で私も責任を感じ「私でよければ」とお伺いした所、是非そうしてほしいと上田さんから許可がありましたので誠に下手な話ですが30分程、皆様のお耳をけがさせて戴きます。

本日の卓話は、職業奉仕委員会の持ち時間であり、当然、職業奉仕に関するお話をすべきであります。とうてい難しすぎて私の出る幕ではありません。そこで、医者として35年色々の死に直面致しましたが、その一部をお話させて戴き、私の職業奉仕の一面としてお受け取り願います。

私が、現在地に開業したのは、昭和29年であり、今日迄23年余り、その間書いた死亡診断書は742枚でありました。死亡診断書を書きながら思う事は、日本人の寿命も大変長くなったという事です。開業当時、即ち昭和35年頃には、70歳近くで亡くなられた場合「まあ、いいお年ですから、天寿を全うされましたね」と平気で言いましたし、御家族の方も何の抵抗もなく聞いていらっしやいました。その天寿がやがて70歳代になり、75歳代になり、今日では、80歳にとどかないと「まあ、お年のせいですよ」と言えなくなりました。70歳未満の人に天寿でございますよと言ったら、大変大目玉を喰うでしょう。

さて、「生あるものは必ず死ぬ」。これは、当然の鉄則ですが「死ぬ時は楽に死にたい」これは万人の欲する所でありましょう。私の経験によりますと、70歳を越えた人は、殆んど、安楽に死んでいられる事が多いという事です。此所にもし、70歳以上の方が居られたらどうぞ御安心下さい。勿論死ぬ前には一度、寝たきり老人にならねばならない事も覚悟して下さい。例えば、昨日迄、ご飯を食べておられたのに、今朝コロリと死なれた。更には、さっき迄隣りの人と話しておられたのに、急に静かになったのでよくみたら、呼吸が止まっていたという事もよくあります。一昨年でしたか85歳になるおばあちゃんが診察室で、順番を待ちながら、隣りの方と話しておられるのが私の耳に入りました。「もうこんな年寄りになったから、いつ死んでもなんもおとまさないがやけど、死る時は楽に死にたいもんやちゃ」その後、カラカラ笑っておられましたが、その笑いが止まらない内に「先生、先生、おばあちゃんが倒れた」。相手の方が呼ばれました。私は飛んでゆきましたが、そのお婆ちゃんは目をむいて、最後の呼吸を一分位続けてその儘他界されました。なんと幸せな人だろう。これが本当の安楽死でしょう。その時、ちょっと思ったのですが、これがもし、私が先に注射か、お薬を飲ませてあったら「薬物によるショック死」として訴えられたかもしれません。話がちょっと横道にそれますが、私が書いた死亡診断書の中で最も多い病名は、動脈硬化症で、これが原因となっておこる脳出血、脳血栓、それに心筋硬塞等です。お年寄りになれば、髪の毛が薄くなる。白毛になる。また顔にしわが増え、腰が曲がってくる。即ち、人間の細胞のすべてが老化してくる。勿論、内臓のすべての器官も老化するのですが、この内臓器官の中でも、特に循環器系統即ち、血管系統の老化が一番多く、これで倒れる人が一番多いのです。老化現象なら仕方がない。薬を飲んでも、飲まなくても同じことだろうと考えがちです。ごもっともな意見だろうと思います。さて、動脈硬化の薬は、次の三点にしばってつくられています。

1. 血圧を下げる事。
2. 末梢血管、即ち血管の一番末端の細い部分を、拡張し、血の流れをスムーズにすると共に血管を強化する事。
3. コレステロールを抑え、且つ脳細胞に活性を与える事。

京都洛北RC友好懇親訪問記

10月21・22日の両日、当委員会本年最大の行事である京都洛北RC親善訪問を実施せり。参加者41名（内ご夫人18名）、バス組は20日夜半、ホワイトハウス前を出発し一路北陸自動車道を南下し、21日早朝鈴鹿の山波連なる雄大な名門日野ゴルフ場到着。ゴルフ参加者9名の優勝を祈りつ、京都駅へ向う。京都駅にて洛北RC源田会長、北尾友好委員長外多数の出迎えを受け、汽車組と合流、市内観光に出発。

京紫野の里、洛北随一の大寺院大徳寺の非公開の本坊及び真珠庵を拝観し、今更ながら京の歴史の深さに感銘を覚える。次いで鷹ヶ峰なる光悦寺、上加茂神社を参詣し、宿泊先の琵琶湖ホテルへ車を走らす。懇親夕食会に先だち、両クラブ会長・幹事有志による約1時間の懇談の場は余りにも短か過ぎた感じであった。

6時半より懇親夕食会が開催され、洛北RC会員並にご夫人63名の心暖まる歓迎により楽しい雰囲気の中に会員紹介、ゴルフ成績発表、結婚記念お祝、プレゼント、ダンスタイムと時間の経つのも忘れる楽しさを覚えた。

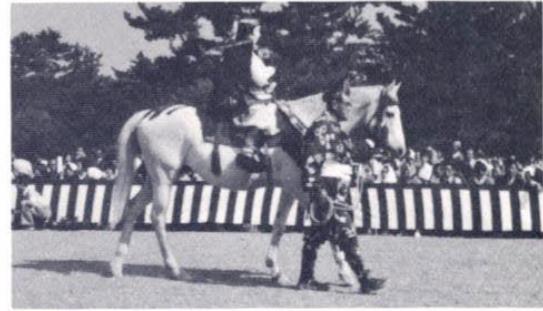
翌22日京都三大祭の一つ、時代祭の参観に早朝ホテルを出発。凡そ1200年の昔、遠き平安の世に皇都と定めそれを記念しての全市あげての神幸祭であり、明治維新・江戸時代・安土・桃山・吉野鎌倉・宝町・藤原・延暦時代と時代絵巻を繰り広げ、延々2軒余と凡そ2,000人に及ぶ行列は誠に豪華けんらんたるものがあり、しばしその時代にあるが如き感をいだけしめた。

帰路のバスの旅は全員一心となり、打ちとけ笑いあり、ジョークあり、歌声ありで大いに親睦の実をあげる事が出来た事を心から喜びと感じます。

此の度の行事を通じ、参加することに意義があると言うロータリー精神、全てのスケジュールに協力していただいた会員の皆さんの友愛を心から感謝いたすと共に、洛北RC源田会長・北尾委員長始め皆さんのクラブ同志の友好より更に個々会員への友愛の輪を広げようと言う心にくいばかりの細かい心配りに特に感謝申し上げ、報告いたします。（平尾記）

親睦ゴルフの成績は、夜行バス（言い訳ではありません？）のため上位入賞は出来ませんでした。5位＝浅田会員、6位＝山上会員でB・B賞は下村会員。以上3名だけでしたが、賞品は亀岡の立派な松茸で羨しい限りでした。（桜井記）





10月例会出席状況

出席率 99.52%

会員名	月日	10/5	10/12	10/19	10/26	10月	会員名	月日	10/5	10/12	10/19	10/26	10月
浅田	豊久	○	M	M	○	◎	岡田	林太	○	M	○	○	◎
野弘	明識	○	○	M	○	◎	村井	精二	○	○	○	○	◎
出島	敬	○	M	M	○	◎	大村	健太	○	○	○	M	◎
東元	信美	M	M	M	欠	×	桜井	哲三	○	○	○	○	◎
平尾	他	○	○	○	○	◎	沢田	田三	○	○	○	○	◎
本江	正健	○	○	○	○	◎	柴水	清次	○	○	○	○	◎
二木	健次	○	M	○	○	◎	塩村	塩明	○	○	○	M	◎
飯野	恒次	○	○	M	○	◎	下村	義厚	○	○	○	M	◎
上野	和隆	M	M	M	○	◎	庄田	外代	○	M	○	○	◎
笠木	光吉	○	○	○	M	◎	高土	一一	○	○	○	○	◎
木小	隆二	○	M	○	○	◎	依原	一栄	○	○	○	○	◎
小越	民守	○	○	○	○	◎	佃見	一忠	○	M	○	○	◎
小杉	守善	○	○	○	○	◎	釣上	安三	○	○	○	○	◎
小杉	健	○	○	○	○	◎	魚若	啓与	○	○	○	○	◎
小増	千博	○	○	○	○	◎	山山	繁修	○	M	○	○	◎
益谷	千郎	○	○	○	M	◎	米米	昭賢	○	M	M	○	◎
松本	芳太	○	○	○	○	◎	吉由	有則	○	○	○	○	◎
水野	市勝	○	○	○	○	◎	山米		○	○	○	○	◎
本岡	省勝	○	○	○	○	◎	米吉		○	○	○	○	◎
宮崎	三	○	○	○	○	◎	吉市		○	○	○	○	◎
宗中		○	○	○	○	◎			○	○	○	○	◎
大岡		○	○	○	○	◎			○	○	○	○	◎
岡部		○	M	M	○	◎			○	○	○	○	◎

